

SETAGAYA TRUST & COMMUNITY DESIGN

ひと・まち・自然

トラまち Press (一財) 世田谷トラストまちづくり情報誌



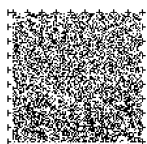
March 2022

Vol. 20

特集

身近な自然を活かすまちづくり
～みどりへの思いでつなぐ、
世田谷のグリーンインフラ～

Setagaya
GREEN
INFRA



P5
共にみどりをはぐくむ
ポートランド市環境局次長
ドーン・ウチヤマさん

P7
トラまちTOPICS

上の「音声コード」に、本誌の概要を記録してあります。
専用の読み上げ装置を使用して、音声で内容聞き取ることができます。

写真：樋からの雨水(あまみず)を利用するために貯めておく水瓶
天の恵みを大切にするという、原点の風景(世田谷区内の個人宅)

身近な自然を活かすまちづくり

～みどりへの思いでつなぐ、世田谷のグリーンインフラ～

わずか半坪ほどの小さな池
雨水を貯めたこの場所を頼りに、トンボやカエルなどの小さな生命が宿る。
(成城4丁目：K邸)

雨を一時的に貯留する樽型の雨水タンク
成城三丁目小さな森では、雨水が花壇を潤し、
大地に還る。(成城3丁目：N邸)

神明の森みつ池特別保護区
1993年よりボランティア活動がはじまり、
現在も成城みつ池を育てる会による活動が続けられている。

守り育てられてきた世田谷の自然

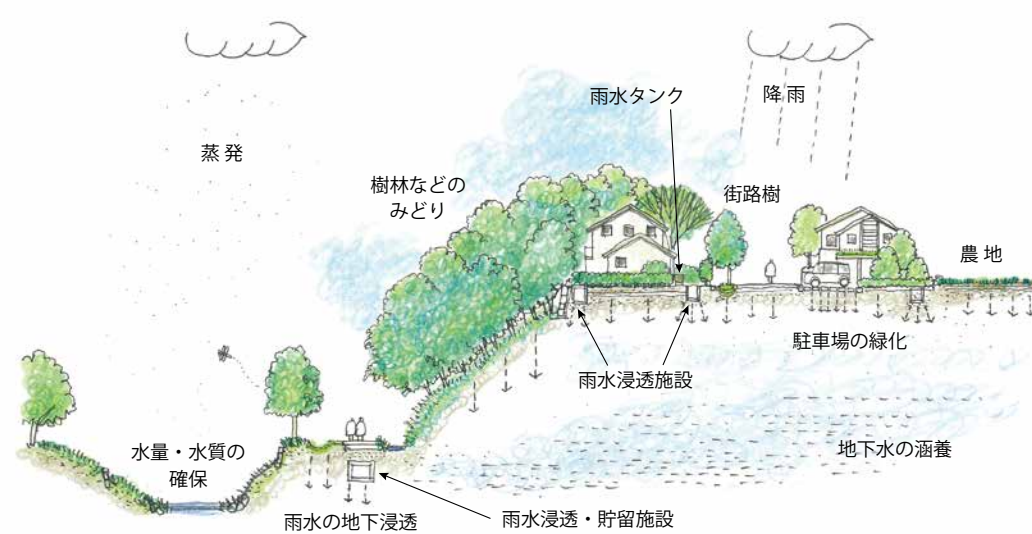
かつて農村地帯であった世田谷のみどり率は、現在25・18%。その約6割は庭などの民有地であり、個々の住民により守られ、また区でも緑化助成など民有地のみどり保全・創出の支援をしてきた。合わせて、世田谷トラストまちづくり(トラまち)でも、前身の(旧)せたがやトラスト協会設立以来、30年以上にわたって特別保護区や市民緑地などにおいて、地域住民によるボランティアと共に調査・保全・普及活動が続けてきた。

これら住民、行政などが長年取り組み、守り育ててきた世田谷のみどりは、グリーンインフラとしても機能を果たしている。中でも成城地区では、住環境を守るために住民が「成城憲章」を制定し、みどり豊かなまちを育んできた。国分寺崖線には成城みつ池特別保護区などの貴重な緑地が残り、湧水保全重点地区にも指定されている。まさに、自然を活かしたグリーンインフラのまちになっている。

まちに自然の機能を活かす

グリーンインフラは、豊かな自然の保全、ヒートアイランド現象の緩和、景観づくり、防災、まちづくりにいたるまで、多様な効果が期待されている。例として、まちに降る雨の視点で考えてみよう。

降った雨を敷地や道路から素早く排水させるのではなく、雨水タンク等の一時貯留や、駐車場の緑化等の地下浸透によって、排水施設への急激な流入を抑え内水氾濫の発生を防ぐなど減災につなげることが期待できる。また同時に、地下水の涵養にもつながり、樹木の根が水を吸い上げる力や葉の蒸散作用など、水循環の摂理を活かすことで、世田谷で進めている「みどりのダム」としても機能を発揮する。



出典：世田谷みどりの基本計画「グリーンインフラの観点による水循環のイメージ」

みどりは、私たちの日々の暮らしに癒しや彩りを与えてくれるほか、**まちの社会基盤(インフラ)**としての機能も注目されている。

『みどりⅡ自然』が持つ様々な力を活かし、その地域に合った持続的で魅力あるまちづくりを進めることを「グリーンインフラ」と呼び、**世田谷でも取り組みは始めている。**

公園のようなまち「成城」

成城で生まれ育ち、戦前からの街並みや自然の姿を知る中川さん。子どもの頃より、みつ池から周囲の田んぼに水を引いている様子など、自然が生活に溶け込んでいる景色が原風景だという。

このまちのため、そしてこの環境を次代に引き継ぎたいと、法人格成城自治会や、野川とハケの森の会、成城みつ池を育てる会、崖線みどりの絆・せたがやなど、長年にわたって成城で様々な住民活動に取り組んできた。雨水浸透ますや雨水タンクの設置についても、中川さんは先陣をきって呼びかけてきた。そんな折、2014年国土交通省や東京都、大学講師と連携して進めてきたグリーンインフラ勉強会にて成城を案内して歩いた。その際、これまで自分たちが活動してきた国分寺崖線も野川も成城の住宅地も「全てが結果的にグリーンインフラにつながっていた」と改めて気付かされたという。



なかがわ せいし 中川 清史さん

「ひとりや少数者だったら、これまでの取り組みが続けてくるのは難しかったでしょう。成城というまちが、豊かな自然を持つユニークな土地であり、かつて原野を拓いて公園のようなまちづくりを目指した学園都市だからこそ、みどりを活かそうとする取り組みや受け入れがスムーズだったのではないかと思います。住民の皆さんに自然に対する強い思いがあるのも、成城がそうしたまちだからでしょう。」

また、「成城憲章」の考え方や、トラまちさんと一緒につくった「成城みどりのスタイルブック」も、街並み保全や自然保護などの活動の大切さに人の目を向けるような流れをつくる役に立っているのではないかと思います。

グリーンインフラを推進する活動が、さらに皆さんが考えるきっかけになり、そして将来につながっていくと良いと思います。住民の皆さんや産官学の皆さん、本当に人に恵まれ、支えられて活動してきました。これからも、みどりへの取り組みが、幼児教育や福祉の場としてもつながっていくようにしたいですねと語る。



▲成城みどりのスタイルブック

令和3年11月には、世田谷区とトラまちによる「世田谷グリーンインフラ学校」が、自分でもできる雨庭づくりを、東京農業大学の協力を得て開校した。

講師陣には前述の神谷博氏をはじめ、グリーンインフラの研究・実践の第一人者である東京農業大学地域環境科学部造園科学科准教授の福岡孝則氏。そして、植物本来の魅力を活かしたプランニングを得意とする、ガーデンデザイナーの平工詠子氏を迎えた。

また、グリーンインフラの取り組みに関して先駆的である米国オレゴン州ポートランド市で環境局長を務めるドーン・ウチヤマ氏が、自然との共生などを研究のテーマとして来日。滞在期間中は世田谷を拠点に活動され、同学校にも関わって頂くことになった。

そして世田谷区からも、豪雨対策・下水道整備課とみどり政策課が講師として登壇した。

学校といってもグリーンインフラを知識として学ぶのではなく、あくまでも実践と「自分でもできる雨庭づくり」の普及・人材育成がメイン。概論を学んだ

実践的に学ぶ「世田谷グリーンインフラ学校」自分でもできる雨庭づくり

後、前年にトラまちで施工した雨庭の見学、演習場所（区立代田富士356（みどり））広場でのフィールドワーク、そして実際に雨庭づくりを体験した。

今回のグリーンインフラ学校への応募数は定員の4倍にも及んだ。この反響に応えるべく、トラまちでは令和4年度以降もグリーンインフラの普及と、次代を担う実践者の育成に注力していく。

みどりへの思いで広がるグリーンインフラ

世田谷グリーンインフラ学校の参加者、竹集水屋根づくりの参加者のいずれも、「グリーンインフラを学びたい」というだけでなく、「雨庭を自分の庭につくりたくて」や「竹が好きで参加した」という声も少なくなかった。

このようなみどりに対する思いや、身近な興味は実はとても大切であり、これまで長年にわたり積み重ねてきた地域での取り組みや活動に加え、一人ひとりの行動が豊かなグリーンインフラを育てていくのではないだろうか。みどりと共に生きるという、世田谷のグリーンインフラがここにある。



▲国分寺崖線の緑地から湧き出す湧水
みどりへの思いが、ここからまたつながっていく



▲ドーン氏（左）と福岡准教授（右）のセッションの様子



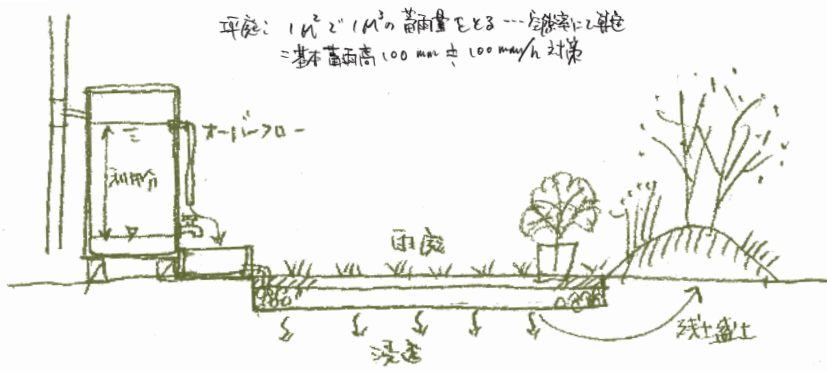
▲演習場所に完成した雨庭



▲竹集水屋根づくり
大きな竹を縦二つに割り、トンカチで節を取った後、位置を確認してヒノキの角材に取り付ける。子どもたちはノコギリを使って竹コップづくりにも挑戦。素敵なお土産になりました。

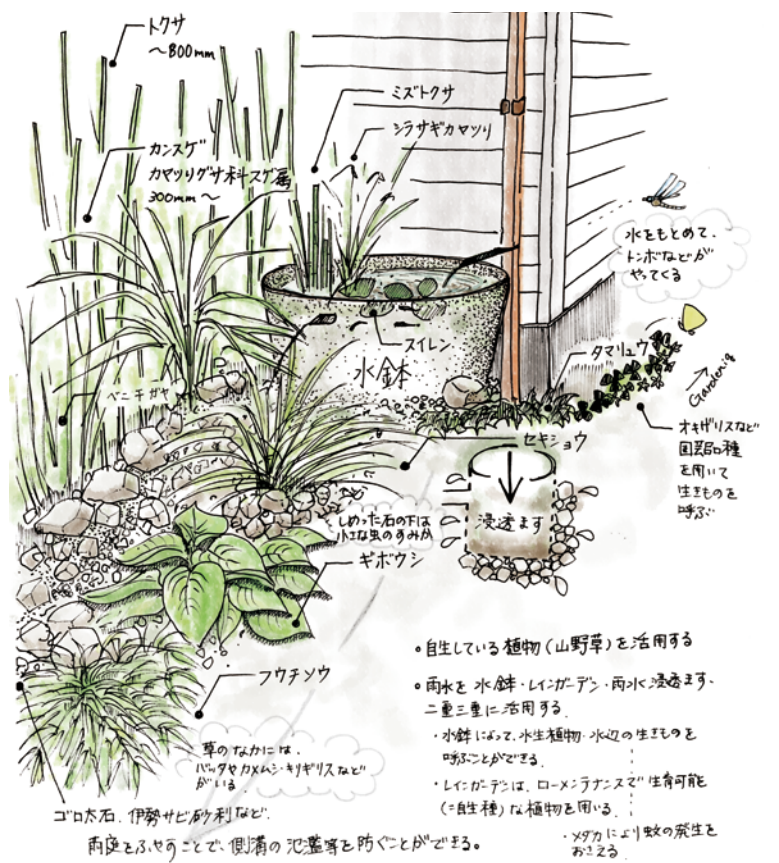


▲ワークショップで施工した里山農園のバイオスウェル（生物低湿地、緑溝）型雨庭



作画：神谷氏による、雨庭づくりのスケッチ

都市型住宅における雨水を活用したガーデニングのイメージ



雨庭（あめにわ）：屋根などに降った雨水を集めて、一時的に貯留し、ゆっくりと地面へ浸透させる庭（植栽帯も含む）。雨は直接地面へ浸透し、下水道等への雨水流入負荷を軽減する。また、生物多様性が豊かになり、水質を浄化する効果も期待できる。

グリーンインフラの普及に向けたトラまちの取り組み

トラまちは現在、長年の実績があるみどりに関する事業を基盤にし、グリーンインフラ普及への取り組みを進めている。

NPO法人雨水まちづくりサポート理事長の神谷博氏からグリーンインフラ技術面の助言を頂きながら検討を重ね、令和2年度から次大夫堀公園内里山農園（喜多見五丁目）で実践型試みを開始した。世田谷区と東京農業大学造園科学科ランドスケープデザイン・情報学研究室をコアメンバーに、（一社）世田谷造園協力会、東京建築士会世田谷支部（公社）世田谷法人会、トラスト生きものアドバイザーといった専門家と連携し、モデルケースとしてワークショップで坪庭型雨庭を施工した。

令和3年度は、施工した雨庭に効率良く浸透させ、また農園で雨水利用するための、雨水を集める「竹集水屋根づくり」イベントを開催した。区立喜多見5.21遊び場（旧竹山市民緑地）から伐り出した竹を使い、連携する専門家や竹山ボランティアが指導にあたった。親子連れなど21組37名が参加し、快晴の空の下、竹を切る音が心地良く響いた。

Growing Greener Together by Dawn Uchiyama

Long connected by trade routes and cultural exchanges that have spanned the Pacific Ocean for centuries, the City of Portland Oregon and The City of Setagaya have more recently bonded around our shared commitment to create more healthy, livable and green communities. As a Council of Foreign Relations 2021 Hitachi Fellow, I am honored to contribute to this commitment and to share our dreams and challenges specifically related to green infrastructure implementation and green climate recovery.

With an abundance of nourishing rains, healthy vegetation and rich soils, Portland was an early adopter and promoter of green infrastructure. We made many significant contributions to keeping “nature in the city” for the well-being of both people and wildlife. Early efforts focused on infiltrating stormwater in landscaped areas to protect fish and other aquatic species from the damage caused by heavy and polluted rainwater draining from developed urban areas draining into our rivers and streams. As the green infrastructure movement grew around the world many other benefits of green infrastructure were realized, including recharging groundwater, reducing urban heat, increasing biodiversity for a wide range of flora and fauna, and improving the overall livability of our cities.

Like cities around the world, Portland has experienced many serious social, political and economic challenges the past few years and, as a result, our green infrastructure efforts have stalled. Given Setagaya’s many strengths, including the impressive Midori 33 plan that proposes to increase green infrastructure and improve resident satisfaction related to greenspaces, Setagaya is incredibly fertile ground to find inspiration and to study traditional and emerging green infrastructure practices in Japan.

My early findings confirm something we probably all instinctually understand – it’s easy to get caught up in green infrastructure as a technical exercise, but really this is a matter of the human heart. And if we don’t consciously make an effort to align our hearts with what we value most, the forces of society, economy, and media will gladly make those choices for us. Like swimming in a river, it takes mindful, steady, and continuous effort to find our way and stay true to our hearts in this demanding and increasingly complex world. As it turns out, where we place our awareness and how we use our precious time and energy are among the most important decisions we can make every day.

The good news is nature is constantly inviting us to pay attention and to grow the good, the beautiful and the healthy. Furthermore, Japan has many valuable cultural practices that can point us in this direction. Remembering our potential and connecting with our deepest intention to do this can happen in any moment. Sometimes all it takes is the intention to slow down and notice the sound of the wind rustling the trees or the light glimmering on wet stones after a rain, or simply taking a deep breath to appreciate all the other living, breathing creatures that share this planet with us. Green infrastructure is invitation to slow down and pay attention so we can make better choices.

Certainly, the past few years have challenged us all, and we have much to be grateful for and many precious opportunities ahead. The most amazing networks of gardens, greenspaces and people are growing in Setagaya and I applaud all of your efforts. I genuinely look forward to us helping each other grow greener together for many years to come.



Ms. Dawn Uchiyama (ドーン・ウチャヤマ)

米国オレゴン州ポートランド市環境局次長、
世田谷区研究員、東京農業大学客員研究員

全米で住みたいまち No.1、環境先進都市として有名なポートランド市において、幅広い分野の戦略的グリーンインフラ事業と、それに伴う組織改革などを指導・実践。2021年6月に来日し、滞在中は世田谷区と東京農業大学において研究員として在席。財団が実施した2021年11月の「世田谷グリーンインフラ学校」にも登壇し、本稿翻訳監修の福岡准教授とのセッションで、世界におけるグリーンインフラ実践例などを講演。リラックスタイムは、ハイキングやサイクリング、絵画や音楽鑑賞、ヨガや瞑想。配偶者はポートランド日本庭園 ガーデン・キュレーターの内山貞文氏。

日本語翻訳監修
福岡孝則 (ふくおか たかのり)
東京農業大学地域環境科学部
造園科学科 准教授

背景画：内山貞文氏による、ポートランド市の
日本庭園立面図スケッチ

共にみどりをはぐくむ

ドーン・ウチャヤマ

オレゴン州ポートランド市と世田谷区は、長きにわたり太平洋を横断する貿易ルートと文化交流によって結ばれてきました。最近では、より健康的で住みやすく、みどり豊かな地域社会を創造するという共通の大義に向けて関係を深めています。アメリカの非営利シンクタンクである外交問題評議会の2021年日立フェローとして、私は両者の取り組みに貢献し、気候変動適応策としてのグリーンインフラ実装により「住みやすい都市をつくる」夢と課題を共有できることを光栄に思います。

豊富な雨、健康な植生、豊かな土壌に恵まれたポートランドは、早くからグリーンインフラを導入し、推進してきました。グリーンインフラは、人と動植物の健全な姿としての「都市の中の自然」を維持するため多くの重要な貢献をしました。初期の取り組みでは、都市部の開発地域から河川に流れ込むひどく汚染された雨水による被害から魚やその他の水生生物を守るために、雨水を緑地に浸透させることに重点を置いていました。グリーンインフラの必要性と技術が世界中で高まるにつれ、グリーンインフラの多岐にわたる便益も明らかになりました。例えばそれは、地下水の涵養、都市の暑熱緩和、様々な動植物の生物多様性の増加、そして都市全体の住みやすさの向上などです。

世界中の都市と同様、ポートランドもここ数年、社会的、政治的、経済的に多くの深刻な問題を抱え、その結果、グリーンインフラへの取り組みが停滞しています。こうした状況の中、世田谷ではみどりのインフラを増やし、緑地に関する住民の満足度を向上させることを目的とした画期的な「世田谷みどり33」に取り組んでおられます。そんな取り組みを見ると、私は励まされ、日本の伝統的なみどりのインフラの実践と、その新しい姿としてのグリーンインフラを研究するための肥沃な土壌が世田谷にあることを確信しています。

私の初期の調査結果は、おそらく誰もが本能的に理解していることを裏付けています。グリーンインフラを技術的な課題として捉えることは容易ですが、本当は私たち人間の「心のありよう」の問題なのです。もし私たちが、自分が最も大切にしたいものの、即ち豊かな「環境」に心を寄り添わせる努力を意識的にしなければ、社会や経済そしてメディアの力が私たちの意思に反した選択を進めてしまうことでしょう。大河を泳ぐかのように、この厳しく複雑化した世界の中で、心に忠実であり続けるためには、自分の道を見つけて着実に努力する必要があります。結局のところ、私たち一人ひとりが毎日の生活の中で、貴重な時間とエネルギーをどう注ぐのかを意識することが最も重要な決断の一つなのです。

幸いなことに、自然は常に私たちに寛大です。私たちが自然と共に、豊かで、美しく、健康的にあるように導いてくれるのです。さらに、日本には自然と共に生きるという考えが生活の中に存在し、貴重な文化的慣習がたくさんあります。私たちの潜在的な力を思い出すこと、そして自然と心の底からの意思でつながることは、どんな瞬間にも起こり得ます。時には、ゆっくりとした気持ちで、木々を揺らす風の音や、雨上がりの濡れた石にきらめく光に気付いたり、ただ深呼吸をして、私たちとこの地球を共有している他の生きとし生けるものたちに感謝したりすることが必要です。グリーンインフラへの取り組みは、私たちがより良い選択ができるように、ゆっくりと「私たちの周りの世界」に意識を向けることを促すものです。

ここ数年、世界中の人々は例外なく試練にさらされてきましたが、同時に、この先には沢山の貴重な可能性と機会が待っていることに感謝することを忘れてはいけません。世田谷では、庭や公園、みどりの場所とそこで暮らす人々の素晴らしいネットワークが育っています。私はそういったことに「心のありよう」を見出し、努力している皆さんに心から拍手を送ります。未来に向けて、世田谷とポートランドがお互いに助け合い、みどりを育む都市をつくっていくことを心から楽しみにしています。

新たな地域課題に取り組む ～ナラ枯れ合同勉強会の開催

カシノナガキクイムシ(カシナガ)という昆虫が原因で、コナラやクヌギ等ナラ類の木が枯れる「ナラ枯れ」は、現在関東で大発生し、世田谷区内でも西南部を中心に広がっています。完全に枯れた場合、倒木の恐れもあるため伐採せざるを得ません。この被害を少しでも食い止めるため、トラまちでは区やボランティアの方々と共に試行錯誤で防除を進めています。

このような状況の中、12月に区やボランティア、(公財)東京都公園協会、明治大学農学部倉本宣教授と共に、被害状況やノウハウ共有のための勉強会を開催しました。今後は、情報発信や伐採木の有効活用など、実験的な取り組みを皆さんと共に進めていきたいと考えています。



ビジターセンターでの勉強会の様子

歴史的文化遺産を後世へ！ ～民有の近代住宅を引き継ぐために

トラまちでは、区内に残された歴史的文化遺産を後世へ引き継ぐため、所有者から建物保存に関する相談を受けています。写真の近代住宅も保存に関するご相談をいただき、修繕のアドバイスや職人の紹介、国の登録文化財への推薦、財団の制度を利用した保全等、家屋敷の保存に向けて様々な支援を長年行ってきました。2022年には国の登録文化財になる見通しです。トラまちでは、こうした近代建築の保全支援にも取り組んでいます。



昭和5年築のK邸

貴重な自然環境の保全再生 ～地域連携・協働による保全活動

トラまちは、長年にわたって大蔵住宅自治会やせたがや自然環境保全の会(トラストボランティア)の方々と共に大蔵三丁目公園内で、都市部では見られなくなったイチリンソウの保全活動をしています。近年は、東京農業大学と連携し、里山再生にまつわる勉強会を実施し、日照を遮る実生木の整理など、効果的な保全再生策に取り組んでいます。また、等々力溪谷においては、世田谷区や東京都市大学、さらには野毛青少年交流センターなど様々な方々と連携しながら、湧水による流れの環境整備や外来植物の除去といった、水辺再生活動を始めています。これからも地域連携・協働の輪を広げながら、区内の貴重な自然環境の保全再生を進めてまいります。



イチリンソウ

時を継ぐ活動支援 ～「まもりやまテラス」の今

まもりやまテラスは、旧守山小学校を区の複合施設として活用した、区民が運営に関わる拠点です。学校時代には、まちづくりファンド助成グループが活動していたほか、テラス開設時には、住民参加型の運営体創出に向けたワークショップにトラまちが協力したなど、継続的に関わりがあります。12月からは、小学校時代からあるピオトープなどテラスの環境を、改めて地域の方々と探るイベント「テラスdeカエルさがし隊」に協力しています。



ぜひテラスに遊びに来てください！

トラまちの活動報告(2021年1月～12月)

世田谷のトラスト運動の成果 ～竹山市民緑地リニューアルオープン

世田谷のかつての農村風景が今も残る喜多見において、トラまちは民有地の竹林を「喜多見五丁目竹山市民緑地」として契約し、約20年間にわたって竹山ボランティア(トラストボランティア)の方々と公開・管理してきました。ボランティアの方々と共に竹林の魅力を伝えるイベントを実施したり、管理作業で発生した竹材を保育園の七夕かざり、新年のどんど焼き、竹細工用に子どものあそび場へ提供するなど、地域の方々に親しんでいただく活動もしてまいりました。多くの方々と共に、地域の宝物を守り育てる「世田谷のトラスト運動」の結果、この喜多見の竹山市民緑地は、区有地化され将来にわたって守られることとなりました。10月から区による再整備が行われ、2022年春から「区立喜多見5-21遊び場(竹山緑地)」としてリニューアルオープンいたします。トラまちは、引き続きボランティアの方々と共に、世田谷の原風景であるこの竹林を守り育ててまいります。



かつての世田谷では竹林を平地にあって竹山と呼んでいた

コロナ禍での取組・試行 ～オンラインの活用

2020年からトラまちでもオンライン導入に取り組み、2021年はイベント、研修、相談業務など活用事業が増えました。実施に際しては、操作が不慣れな方でも、安心して参加できる工夫を心がけています。オンラインは、現地に足を運ぶことが難しい方でも時間帯や移動距離等にとらわれることなく気軽に参加できる利点がある反面、従来の顔を合わせて集まる機会・場の重要性も改めて認識しています。今後も試行を重ね、状況に応じて使い分け、withコロナの中で事業実施に取り組んでまいります。



まちづくり交流会もオンラインで

まちづくり活動のネットワークづくり ～(一社)世田谷造園協力会との協定締結

地域の課題解決に取り組む区民主体の活動支援など、トラまちでは多様な連携により事業を進めています。これまで金融・建築・不動産・税理などの専門団体と支援協定を結び、各種事業にご協力いただいています。10月には、新たに(一社)世田谷造園協力会と協定を締結し、造園緑化の支援ネットワークを強化することができました。今回の締結で支援協定は合計8団体。引き続き相互の強みを生かしあい、環境共生・地域共生のまちづくりを進めていきます。

緑地保全活動に新たな若い力が ～成城三丁目緑地

成城三丁目緑地里山づくりコア会議(トラストボランティア)は、明正小学校の総合学習に協力し、授業の中で児童たちが保全作業に参加しています。この児童たちの作業は、緑地保全の大きな力になっています。また、企業ボランティアにも協力をいただいていたましたが、こちらはコロナ禍による活動中止で、例年通りの作業ができない状況でした。そんな中、12月に新たに千歳丘高校の生徒たちの協力があり、滞っていた力仕事などの作業を進めることができました。



頼もしい活動をしてくれた高校生の皆さん

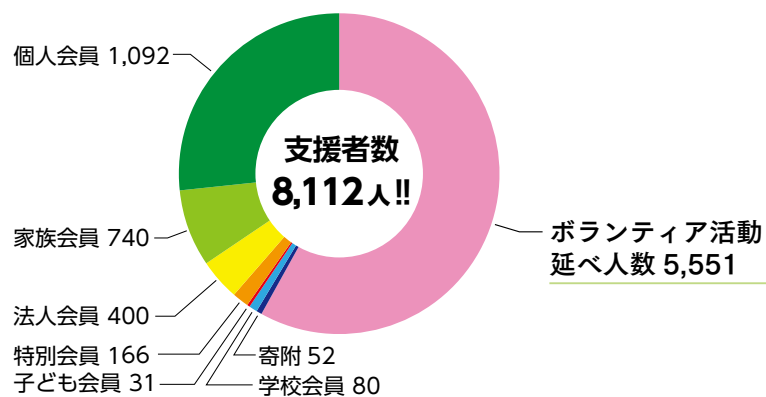


里山農園隣の雨庭づくり((一社)世田谷造園協力会)

いただいた支援の報告

世田谷のトラスト運動や区民主体のまちづくり活動は、トラストまちづくり会員や寄附、トラストボランティアなど、たくさんの方々に支えていただいております。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、制限のある生活の中で、2021年は2,561名の会員・寄附者の方から4,347,809円ものご支援をいただきました。またトラストボランティア団体には、延べ591回・5,551人(2021年4～12月)もの活動で支えていただきました。皆様のご支援に改めて感謝申し上げます。トラまちは「区民参加・連携・協働によるみどり豊かな環境共生・地域共生のまち世田谷」の実現に向け、引き続き皆様と共に取り組んでまいります。



四季折々の花が彩る園内 年間のべ1,900人が活動する「フラワーランド友の会」



世田谷区内に残された貴重な自然について解説する「成城みつ池を育てる会」

法人会員 ※敬称略 五十音順

税理士法人アドヴァンス会計、石狩造園株式会社、イブシロン株式会社、有限会社ウールズともや、株式会社上仁、HK株式会社、株式会社岡野造園、株式会社小川植木、株式会社オズ・スタジオ&ショウビズ、株式会社北山ハウス、北山ハウス産業株式会社、有限会社高栄消毒、小金井造園株式会社、有限会社小金井緑化、株式会社小林石庭造園、さくら庭園株式会社、三栄造園株式会社、株式会社自然教育研究センター、昭和信用金庫、社会福祉法人青藍会、株式会社セガワ、株式会社世田谷サービス公社、有限会社泰平造園、第一緑興株式会社、株式会社高島屋 玉川店、株式会社高橋植木、ちとせ緑地株式会社、東京世田谷電設工業協同組合、野川とハケの森の会、株式会社ビーネン、二子玉川振興対策協議会、平成造園株式会社、北友商事株式会社、松原5・6丁目自治会、有限会社マルカワ、株式会社丸九シ戸鉄男商店、株式会社緑の風景計画、株式会社メイデン・エレクトクス、有限会社望月造園、有限会社山越造園、株式会社吉村造園、緑進造園株式会社

トラストまちづくり会費・寄附額(2021年1～12月)

	トラスト基金	まちづくり基金
会費	2,397,500 円	448,500 円
寄附	1,334,118 円	167,691 円
合計	4,347,809	

皆様からいただいたトラスト基金は、民有地のみどり保全のために市民緑地開設費に充当させていただいております。前年度は、上祖師谷五丁目花の木市民緑地及び松原一丁目日章館亀井邸市民緑地の開設費用等(1,777,896 円)に大切に使用させていただきました。

- なかんだの坂市民緑地ボランティア
- こもれびの庭市民緑地ボランティア
- いらか道市民緑地ボランティア
- 小さな森ボランティア
- フラワーランド友の会
- 野鳥ボランティア
- せたがや自然環境保全の会
- 岡本緑地ボランティア
- 経堂五丁目特別保護区ボランティア
- 竹山ボランティア
- 成城みつ池を育てる会
- 成城三丁目緑地里山づくりコア会議
- 世田谷すみればネット
- 次大夫堀公園里山農園活動メンバー
- 近代建築保全ボランティア
- 猪股庭園解説ボランティア※
- せたがや野川の会
- トラスト通信ボランティア
- せたがやトラスト彩草会
- トラストまちづくり大学同窓会
- ビジターセンターボランティア※
- 野川とハケの森の会
- NPO 法人 砦・多摩川あそび村
- NPO 法人 せたがや水辺デザインネットワーク

※コロナ禍に伴い活動休止中

多様な「まちづくり活動」を支援し続ける ～まちづくりファンド30年

トラまちが1992年に設立した公益信託世田谷まちづくりファンドは、2022年12月で30年を迎えます。住みよい環境づくりにつながる区民主体のまちづくり活動への助成を目的に、時代に合わせた部門変遷をしてきました。4月からは「つながりラボ」部門を新設しました。コロナ禍など社会状況の変化の中、さまざまな暮らしの課題解決や新たな価値を創造していく上で、「拠点・場」の可能性に着目し、場をもつ団体の多様な協働による実験的な取り組みに対して助成を行っています。

また12月には30周年に向けてのプレ企画として、24時間オンラインイベント「まちづくりデイ」を開催しました。30年を参加者と共に考える趣旨で、世田谷のまちづくりに関わる方々のトークを軸に、活動現場からの中継、区による区民協働事業の紹介、運営委員による公開会議など、区民と共に創られてきたファンドらしい催しとなりました。

引き続き30年の蓄積とつながりを活かしていくために、さまざまな観点から活動支援のあり方を考えていきます。



助成グループの活動風景 (一社)おやまちプロジェクト

地域共生のいえ誕生 ～「らくらくハウス」

2022年の春、二子玉川駅近くに新たな地域共生のいえが誕生します。「地域のみんなで作る、みんなの居場所」をモットーに活動されています。トラまちでは2020年に建物オーナーからの相談を受け、「(一社)耐震100%実行委員会」からモニターのお申し出があった木質耐震シェルター※を紹介するなど、支援をしてまいりました。オーナーは、開設にあたってシェルター導入だけでなく、キッチンと居室をつなげる工事を行い、建物の利便性と安全性を向上させました。これからもたくさんの方を迎え入れ、地域と共に成長していく「らくらくハウス」の応援をよろしくお願いします。



木質耐震シェルターを設置した部屋の様子

※(一社)耐震100%実行委員会と(株)エヌ・シー・エヌとが共同開発したシェルター。大掛かりな耐震改修ができない場合でも、部屋単位で設置することができ、地震による家屋の倒壊から一定の空間を確保することで命を守る。

トラスト基金へのご寄附 ～3 団体へ感謝状

毎年「世田谷にみどりいっぱい」の会、「成城環境保全協力会」から、トラスト基金に多大なるご寄附をいただいております。新たに、トラまちビジターセンターに自動販売機を設置しているサントリービバレッジソリューション株式

式会社(旧：株式会社ジャパンビバレッジ)が、自販機売り上げの一部を継続的にトラスト基金に寄附してくださることになりました。これらあたたかいご支援に、トラまち理事長より感謝状を贈呈させていただきました。



世田谷にみどりいっぱいの会



成城環境保全協力会



サントリービバレッジソリューション株式会社

ご近所さんと一緒に楽しむストリートガーデニング、はじめませんか

新しくなった!

3軒からはじまる ガーデニング



ご近所で取り組む
「環境にやさしい街並づくり」を支援しています。



一般財団法人 世田谷トラストまちづくり

地域でのコミュニティがより長く、活性化されるよう制度をリニューアルしました。ガーデニングアドバイザー派遣回数を2年間で5回から、5年間で9回に変更。また、「みどりを育てながら地域の交流を図りたいけれど、ガーデニングは初めてで不安…」といった方でも参加しやすいよう、基礎講座も開催します（毎年2月頃に開催予定：支援制度参加には必須）。ガーデニングの基礎知識や、現在活動されているグループの話聞いて、自分たちの地域での活動イメージが湧くのではないのでしょうか。新たなことをスタートするには期待と不安が入り混じりますが、そんな不安を払拭するサポートをぜひご活用ください。

「3軒からはじまるガーデニング」では、ご近所みなさんでコミュニティ主体の個性ある街並み形成をめざし、人にも生きものにもやさしい街並みづくりを支援しています。



世田谷区内の民有地で誰もが景観を共有できる道路沿いで緑化活動を行う、3軒以上で構成されたグループが対象となります。現在、34グループ153軒の皆さんが登録・活動しています。

制度について詳しくはコチラへ⇒



https://www.setagayatm.or.jp/trust/green/gardening_support/index.html



活動前



アドバイスの様子



各場所の植え込み



活動後

ひと・まち・自然
WEB アンケート
実施中!

回答期限:2022年4月30日(土)

WEBアンケートにご協力いただいた方に、
もれなく素敵な景品をプレゼント!

より魅力のある情報を発信するため、
ぜひ、読者の皆様方のご意見や感想をお聞かせください。



当財団にお寄せいただいた個人情報は、財団からのご連絡のために利用いたします。取得した個人情報は、法令の定める場合を除き第三者に提供することはありません。開示請求等の場合は、個人情報保護管理者（電話：03-6379-4300）までお問合せください。なお、WEBアンケートは、ユミルリンク株式会社が提供する「Webアンケート・フォームシステム Cuenote Survey」を利用しています。



一般財団法人 世田谷トラストまちづくり
SETAGAYA TRUST & COMMUNITY DESIGN

2022年3月発行
〒156-0043 世田谷区松原6-3-5
Tel 03-6379-4300(代表)
Fax 03-6379-4233



【財団ホームページ】
世田谷トラストまちづくり
<https://www.setagayatm.or.jp/>



フェイスブック▶



ツイッター▶



インスタグラム▶

